

# 日本電子音楽協会 第10回演奏会

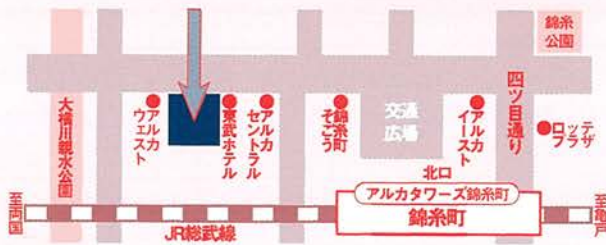
2004.3.10. Wed.

## 大井浩明氏を 迎えて

18:30 open  
19:00 start

すみだ  
トリフォニー  
小ホール  
03・5608・5400

入場料  
3,500円



主催  
日本電子音楽協会

お問い合わせ  
日本電子音楽協会(岩崎) 042・923・6450

“連弾指.”  
MIDIピアノとMAX/MSPによる  
一人のピアノ奏者のための  
"particles"  
for MIDI Piano & Computer  
(MAX/MSP)

由雄正恒

ピアノ  
大井浩明

桃井聖司

アルト・サクソ  
柴山貴大

“メテオ”  
アルト・サクソフォンと  
コンピュータのための  
"Meteor"  
for Alto Saxophone  
and Computer

ペンローズタイル

penrose tile

門脇治

ピアノ  
大井浩明

しばてつ

オンド・マルトノ  
大井浩明  
鍵盤ハーモニカ  
しばてつ

～大井浩明氏委嘱招待作品～  
オンド・マルトノと  
鍵盤ハーモニカのための  
“電波梅”  
Un grand merci à Monsieur  
Takashi HARADA

中川善裕

ヴァイオリン  
佐藤まどか

“マリアの微笑み”  
ヴァイオリンと  
MIDIピアノのための  
"Mary's smile"  
for Violin and MIDI piano

二畳紀

2台のシンセサイザーのための

The Permian for 2 Synthesizers

岡崎光治

シンセサイザー  
石垣弘子  
中川賢一

水野みか子

醒める河で

ピアノ  
大井浩明

With the  
Impetuous Current

# 大井浩明

Hiroaki Ooi

ピアノ、オンド・マルトノ



photo by Masato Yokoyama

京都市生まれ、同地に育つ。

電子工学を専攻したのち、スイス連邦政府給費留学生ならびに文化庁派遣芸術家在外研修員としてベルン音楽大学(スイス)に留学、ブルーノ・カニーノに師事。同音大大学院ピアノ科ソリストディプロマ課程(最高課程)修了。また、ストラスブール音楽院特設課程にて、オンド・マルトノをトマ・ブロック氏に師事。

日本オンド・マルトノ友の会会員。

第30回ガウデアムス国際現代音楽演奏コンクール(1996/ロッテルダム)、第1回メシアン国際ピアノコンクール(2000/パリ)に入賞。

第3回朝日現代音楽賞(1993)、第11回アリオン賞奨励賞(1994)、第4回青山音楽賞(1995)、第9回村松賞(1996)、第11回出光音楽賞(2001)等を受賞。

内外のオーケストラやアンサンブルと共演するほか、ヨーロッパ各地の音楽祭に出演。電子音楽関連では、シュトックハウゼン:クラヴィア曲第15番《サンティ・フォー》(シンセサイザーとオクトフォニック電子音響)、同第16番(ピアノと電子音響)の日本初演等を行っている。2002年秋にフランスTimpaniレーベルから発売された初CD、クセナキスのピアノ協奏曲『シナファイ』(共演/アルトゥーロ・タマヨ指揮ルクセンブルク・フィルは国内外で大きな反響を呼び、このジャンルでは異例のベストセラーとなった。

※CD評・インタビュー集成は木下健一氏のサイトにアップロード中:  
[http://perso.wanadoo.fr/kinoken2/intv/intv\\_contents/ooi\\_menu.html](http://perso.wanadoo.fr/kinoken2/intv/intv_contents/ooi_menu.html)

2004年6月にはクセナキス第2協奏曲「エリフソン」の世界初録音を予定している。

現在ベルン在住。



日本電子音楽協会  
第10回演奏会

大井浩明氏を  
迎えて

すみだ  
トリフォニー  
小ホール

2004.3.10.  
Wed.  
19:00 start

主催:日本電子音楽協会

協賛:全日本電子楽器教育研究会

後援:オーストリア文化フォーラム

## 由雄正恒

“連.弾.指.” MIDIピアノとMAX/MSPによる一人のピアノ奏者のための

ピアノ:大井浩明

## 桃井聖司

“メテオ” アルト・サクソフォンとコンピュータのための

アルト・サクソフォン:柴山貴大

## 門協治

ペンローズスタイル

ピアノ:大井浩明

~招待作品~ セ-リエン・チュワン

Erinnerung in jedem Laut, for live instrument, live electronic and visuals

揚琴 (Yan-zin): Se-Lien Chuang コンピュータMax/msp: Andreas Weixler

## 休憩

~大井浩明氏委嘱招待作品~ しばてつ

オンド・マルトノと鍵盤ハーモニカのための“電波梅”

オンド・マルトノ:大井浩明 鍵盤ハーモニカ:しばてつ

## 中川善裕

“マリアの微笑み” ヴァイオリンとMIDIピアノの為の

ヴァイオリン:佐藤まどか

## 岡崎光治

“劫” アルト・サクソフォンとシンセサイザーのための

アルト・サクソフォン:及川麻里 シンセサイザー:石垣弘子

## 水野みか子

“醒める河で” MIDIピアノとライブ・コンピュータのための

ピアノ:大井浩明

□大井浩明(ピアノ、オンド・マルトノ)

京都市生まれ、同地に育つ。

電子工学を専攻したのち、スイス連邦政府給費留学生ならびに文化庁派遣芸術家在外研修員としてベルン音楽大学(スイス)に留学、ブルーノ・カニーノに師事。

同音大大学院ピアノ科ソリストディプロマ課程(最高課程)修了。

また、ストラスブール音楽院特設課程にて、オンド・マルトノをトマ・ブロック氏に師事。

日本オンド・マルトノ友の会会員。

第30回ガウデアムス国際現代音楽演奏コンクール(1996/ロッテルダム)、第1回メシアン国際ピアノコンクール(2000/パリ)に入賞。

第3回朝日現代音楽賞(1993)、第11回アリオン賞奨励賞(1994)、第4回青山音楽賞(1995)、第9回村松賞(1996)、第11回出光音楽賞(2001)等を受賞。

内外のオーケストラやアンサンブルと共演するほか、ヨーロッパ各地の音楽祭に出演。

電子音楽関連では、シュトックハウゼン:クラヴィア曲第15番《サンティ・フォー》(シンセサイザーとオクトフォニック電子音響)、同第16番(ピアノと電子音響)の日本初演等を行っている。

2002年秋にフランスTimpaniレーベルから発売された初CD、クセナキスのピアノ協奏曲「シナファイ」(共演/アルトゥーロ・タマヨ指揮ルクセンブルク・フィル)は国内外で大きな反響を呼び、このジャンルでは異例のベストセラーとなった。

(CD評・インタビュー集成は木下健一氏のサイトにアップロード中:

[http://perso.wanadoo.fr/kinoken2/intv/intv\\_contents/ooi\\_menu.html](http://perso.wanadoo.fr/kinoken2/intv/intv_contents/ooi_menu.html))

2004年6月にはクセナキス第2協奏曲「エリフソン」の世界初録音を予定している。

現在ベルン在住。



## “連.弾.指.” MIDIピアノとMAX/MSPによる一人のピアノ奏者のための "particles" for MIDI Piano & Computer (MAX/MSP)

Masatsune  
Yoshio

### 【プログラムノート】

この曲において、音の選定やリズム、また音響処理のためのパラメーターは、3D画像の手法にあるparticles画像の動きが基になっている。ピアノ演奏部分に関しては、particlesの動きをMIDIノートナンバー(音程)、ベロシティ(強弱)、デュレーション(持続)に変換したものを楽譜化してあり、一つは奏者によって、もう一つはMIDIピアノによる自動演奏を行う。また、音響処理としては、リアルタイムに奏したピアノ音を、particlesの動きの変換数値によって、フィルター、ディレイ、ピッチチェンジ、ループの音響を作り出しており、それらは、ピアノ内部に仕込まれたコンタクトスピーカーと2chのPAスピーカーによって再生される。構成は7部。

この曲は、コンピューター音楽のほとんどの共通テーマの一つでもある科学的数値を音にすることの行為、そしてそれを享受することとは何なのか、コンセプトになっている。今回、particlesである理由としては、常識であって説明できない、生活の一部なるものを感じさせられるもの、その一つとして、重力というものが、音と音との関係性を想像できるのではないかという点である。粒子の動きの中の重力が、音塊から成長していく音階への動きと関係していく様を、またその関係は極めて小さなもの(弾指レベル)に還元されていくかもしれない様を、生み出された楽譜というものによって、まじめに演奏させられる行為と再生される音響から、何か感じられるものがあるのではないかと思っている。また、この曲は、ピアノ音楽の伝統文化の一つである連弾を人間と非人間の2手+αで行う試みの第3番である。

### ■由雄正恒

神戸出身。

作曲家、メディアマスターNo.75。

音譜←→演奏←→音響の関係の中にコンピューターを介在させ、音組織の選定からそれを一般的な楽器の演奏を通じて音響処理を行い、またそれを楽譜にフィードバックさせるなどの作品を発表している。

近作は「コンティヌオNo2コンピューターと吹奏楽器のための」など。

また演奏活動や映像等のサウンド提供も行っている。

作曲を佐藤洋一、上原直、岩下哲也、豊住竜志、三輪眞弘の各氏に師事。

現在、昭和音楽大学専任講師。

## “メテオ” アルト・サクソフォンとコンピュータのための "Meteor" for Alto Saxophone and Computer

Seiji  
Momoi

### 【プログラムノート】

サクソフォンの音色が〈Meteor=流星〉の放つ一瞬の煌めきに結び付いて、曲想が閃いた。曲の前半は間隔を空けて現れる流れ星、後半の盛り上がりは〈Meteor Shower=流星群〉をイメージして構成。生のサクソフォンの音に様々なエフェクトを掛けるとともに、バックの電子音も全て、柴山さんの吹くサクソフォンを録音し加工した素材のみを使用している。

また、曲中にある〈柴山さんの吹く生のサクソフォン〉と〈コンピュータの奏でる柴山さんのサクソフォン〉との対話による即興部分では、「地球外生命との交信」を想定してみた。夜空を彩る流星の煌めきが、単に「宇宙空間を漂う塵が地球の大気に衝突して燃えた光」というだけにとどまらず、「遙か宇宙の彼方から我々へ送信されたメッセージ」のような気がしてならないのは、私だけだろうか？

### ■桃井聖司

愛知県出身、東京都在住。マルチメディア・タイトルや映像作品のための音楽制作を中心に活動。その一方で、「楽園の愉悦」(1999)、「Motet XX」(2000)、「飛龍天翔 尺八とコンピュータのための」(2001)、「空の呼吸」(2002)と、ストーリー性を持った独特のスタイルによる電子音楽作品を、コンスタントに発表している。

その他にも、邦楽器のための室内楽作品、リトミックのための作品、ミュージカルの作編曲など、楽曲創作のフィールドは多岐に渡る。2003年7月に、ボディ・クラッピングとピアノによる「Solid」と、邦楽器群と電子音および動き手による「翠嵐」の作品2曲が、ジュネーブにて海外初演された。

また近年、自身の企画によるコンサートを東京、愛知、山梨の各地で開催するなど、意欲的に活動を展開。2004年8月には、こまばエミナースホールで主催する公演にて、代表作の「朗読と歌による“葉っぱのフレディ”」を、電子楽器をフューチャーした新たなアレンジで上演予定。

日本電子音楽協会会員、アンサンブル・ユリズミクス名誉会員、ローランドRMS音楽教室本部指導スタッフ。個人サイトは<http://momoi.jp>。

### □柴山貴大(アルト・サクソフォン)

北海道出身、埼玉県在住。愛知県立芸術大学、東京ミュージック&メディアアーツ尚美卒業。

2002年 旭川市新人音楽会に出演、音楽賞受賞。

2003年 日演連推薦新人演奏会にて札幌交響楽団と共演。

札幌\_ゾンタクラブ主催コンサートに出演。

札幌時計台にてデビューソロリサイタル開催。

2004年 札幌、北見にて第2回ソロリサイタル開催予定。

サクソフォンを服部吉之、雲井雅人の各氏に、室内楽を中川良平、村田四郎、菅原眸、服部吉之・真理子夫妻の各氏に師事。現在、関東、北海道、長野を中心にサロンコンサートなどの演奏、サクソフォンや吹奏楽の指導で活動中。

ローランドミュージックスタジオ渋谷センター、よみうり文化センター川越、新星堂ロックイン熊谷、美鈴楽器(長野)、各サクソフォン講師。



## 【プログラムノート】

大井浩明さんをフィーチャーしての演奏会ということで、胸がワクワクした。ピアノの音を取り込んでリアルタイムに変調をする(簡単にいってしまえばエフェクターに繋ぐような)スタイルはすぐに決定したが、更に電子的変調なしでも成立するような曲にしようと思った。しかしだからこそ、今回演奏するいわばエレクトリックバージョンでは、生のピアノの音は聞き取れない方がよいと考えている。鍵盤からスピーカーまでが一つの楽器であるようなイメージだ。

## ■門脇治

1964年、塩竈市生まれ。  
宮城教育大学卒業、同大学院終了。  
作曲を本間雅夫、吉川和夫の両氏に指事。  
1998年個展「星の軌跡」開催、1999年平成10年度宮城県芸術選奨新人賞受賞。  
主な作品に、「Range第2番」(Cl、コンピュータ)、「Toward」(吹奏楽)、「宇宙を漂う塵がやがて星となるように」(Cb、マリンバ)など。  
最近では、ダンサー・星川しょうこさんとのコラボレーションで、ライブコンピュータ音楽に勤しんでいる。  
日本作曲家協議会、日本現代音楽協会、日本電子音楽協会、仙台作曲家集団、グループINTE各会員。  
現在宮城県仙台西高等学校教諭。

## 【プログラムノート】

人間であれコンピュータであれ記憶やメモリーを構成するいくつもの断片が、音響と映像の間の共感覚を生み出す。ここでは、アコースマティックを音楽の空間化に応用することによって、「聴く想像力」のための視覚要素を統合した。  
(水野みか子 訳)

## ■セ-リエン・チュワン(Chuang Se-Lien:作曲家、ピアニスト、メディアアーティスト)

1965 born in Taiwan, since 1991 residence in Austria  
2003/04 lecturer in computer visual communication at Tainan National College of the Arts, Department of Applied Music /Taiwan  
2000/01 research project in computer music and audio-visual arts in Nagoya City University/Japan  
2003 commission of composition by city museum Innsbruck/Austria; promotion of composition by Kunst Sektion BKA/Austria and SKE Fonds  
2000 commission of composition by Styria Government 2000; commission of composition by Asian Cultural Links for the taiwanese ensemble CFMW/Taiwan  
diverse performances and study-stays in Europe, Asia, South- and North America.

## 主な活動

- \*2003 k r y p t o n a l e 9 Festival Berlin/Germany
- \*2003 Busan International Digital Technology Music Festival Busan/ South Korea
- \*SICMF 2003 \_Seoul International Computer Music Festival Seoul/South Korea
- \*2003 "Ruheraum" exhibition by the City of Innsbruck of celebrating the 75th anniversary of the Nordkettenbahn funicular system which is in the Tyrolean Alps/Austria
- \*SICMF 2002 \_Seoul International Computer Music Festival Seoul/South Korea
- \*ISEA 2002 \_ the 11th International Symposium on Electronic Art Nagoya/Japan
- Artport 2001 - MEDIASELECT 2001 Meandering Look - PreISEA Program, Nagoya/Japan
- \*Laval Virtual and VRIC (Virtual International Conference), France 2001
- \*Experimental Intermedia NYC 2000
- \*concert New International Community of Electroacoustic Music (NICE)/Amsterdam, Netherland 2000
- \*SIBGRAPI 2000 Video Festival/Gramado-RS, Brazil
- \*6th international festival in computer music of Pusan Eletronic Music Association Performance, South-Korea 2000

## □アンドレアス・ヴァイクスラー(Andreas Weixler:作曲家、メディアアーティスト)

1963 born in Graz Austria, EU.  
study of composition and music theory at the University of Music and Dramatic Arts in Graz, Austria with Andrzej Dobrowolski (Poland),  
Younghi Pagh-Paan (South-Corea), 1995 Diploma (masters degree) in composition with Beat Furrer (Swiss / Austria)  
2000/01 special research in computer music at Nagoya City University, Japan, 1996 Austrian National scholarship for composition  
  
2003/2004 guest professor at the Tainan National College of The Arts (TNCA), Applied Music Department, Taiwan  
since 1997 professor for music- & media technology at the Bruckner-University in Linz, Austria  
International lectures in computer music, composition and media arts in Austria, Germany, Japan and Taiwan.  
since 1995 member of the directors board of the Austrian Society of Electroacoustic Music  
performances in Europe, Asia, South- and North America. Numerous musical projects in the field of jazz related music, music for contemporary theatre and dance, contemporary composition and computer music, video and interactive media arts.

contact: aweixler@bruckneruni.at  
URL: http://avant.mur.at/weixler

※なお、この招待作品のためにオーストリア文化フォーラムのご後援をいただきました。  
この場をお借りしまして、関係者の方々にお礼申し上げます。



～大井浩明氏委嘱招待作品～  
オンド・マルトノと鍵盤ハーモニカのための“電波梅”

## 【プログラムノート】

「電波梅」(ondes prunier)オンドマルトノとピアノのための

- 1.電波(ondes) 拍のない音響音楽。
- 2.梅(prunier) 50数回テンポが変わる鼻歌風音程音楽。

大井浩明さんから電話代が心配になる長い国際電話が掛かってきて、オンドマルトノとピアノ(=鍵盤ハーモニカ)の曲を作り演奏することになる。先ず、CDや楽譜やWebでオンドに就いて知識を得ようと試みる。次に、本物のオンドマルトノを見せて頂く。一台一台、音や機能はかなり違う事、繊細な取扱が必要な楽器である事を知る。

「電波梅」譜面作成のプロセス。片手でシンセサイザー、片手でピアノの即興演奏を幾つか録音する。その中の一つを採譜し、どうしても気に入らないところだけを、変更、削除、新たに付け足す。採譜したオンドのパートをパソコンに打ち込んで、ピアノと演奏してみる。更に訂正する、演奏できるように様々な記号を記入する。このようにして「2.梅」はできつつある。「1.電波」は逆に、紙の上に音符を書いてみることから始めて変更を加えて行く。全体は、長篇鼻歌といった感じの音楽となった。

鼻歌は、自分では楽しいが隣人には迷惑というケースが多い。そんな時、どうしよう。

- 1)迷惑だという事実に目をつぶり、自分が楽しい鼻歌を続ける。
- 2)迷惑はいけないことだから鼻歌は止める。
- 3)隣人に楽しい鼻歌を探し鼻歌う。
- 4)他人の耳を想像した上で、自分が楽しい鼻歌を鼻歌う。
- 5)その他

私のスタンスは4)。今年は、他人の耳を想像しよう。

演奏中発生する音響。オンドの音程/音量のビブラート、ピアノのベンド(浅鍵盤奏法)。マイクに対する音源の移動によるドップラー現象。オンドの微分音、ピアノの不正確な調律を放置してある音程。オンドの様々なスピーカーとピアノを出力するスピーカーとの間で生じる「うなり」など。

なお、今回の演奏の実現に関しまして甚大な御協力を賜った、オンド奏者のハラダタカシさんに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

## ■しばてつ

兼業音楽家。1959年東京生まれ。

ピアノソロの即興演奏を1987年から始める。聴く人がいようがいまいが毎月1回以上は演奏する。1995年から16回に渡って、作曲/演奏セッション「プロノイペンソン・リアルタイム・オーケストレーション・ワークショップ」を開く。秋吉台セミナー、高橋悠治+高田和子両氏の邦楽セミナーなどに参加し現代音楽系の人々とも知り合う。

現在は、即興音楽グループ「細田茂美しばてつモリシゲヤスムネ」、野村誠率いる鍵盤ハーモニカアンサンブル「P-ブロッ」などが主な演奏活動。軽度の難聴。

紙に書いてある作品として、ピアノ曲「フリードリッヒ・タンゴ・バッハ」「逆行で弾け、君が代」。不定楽器のための「サインA」、「片手でできる事をしよう」。P-ブロッのための「細雪no.1~4」「¥852,251。」など。

個人レーベル「いなもでーそ」に、細田+しばてつDUOの「人間そっくり」などのCDR。

しばてつHP「そーでもない」 <http://www4.plala.or.jp/soodemonai/>

“マリアの微笑み” ヴァイオリンとMIDIピアノの為の  
"Mary's smile" for Violin and MIDI piano

## 【プログラムノート】

ヴァイオリンをトリガーとする、ピアノの為のアルゴリズムコンポジションを中心的な内容とする作品として計画された。まずある種の音列のヴァリエーションをつくり(数千個)、そのヴァリエーションを近親度、音域等の要素によって、順次選択していく機能を持つMaxのオブジェクトを制作することからはじめた。(音楽は統一と変化の時間的構成にほかならないので、このオブジェクトが、この音楽の内容を決定する重要なかぎとなる)題名はヴァイオリンのポルタメントが平均率上の周波数を越える際に、ピアノが女性が微笑むように、コロコロと鳴る・・・というイメージがあったのでこの題名になった。今回制作したMax用オブジェクトは<http://www.cpara.com/max/>で公開の予定をしている。

## ■中川善裕

北海道札幌出身。北海道教育大学札幌校、東京芸術大学作曲科、同大学院卒。これまで作曲を木村雅信、南弘明、故黛敏郎、林光の各氏に師事。京都でジルベール・アミ、秋吉台でブライアン・ファニホーに作曲の指導を受ける。

長谷川良夫賞、第58回日本音楽コンクール作曲部門入選。

第25回日本交響楽振興財団奨励賞。

東京芸術大学音楽環境創造科、洗足学園音楽大学音楽・音響デザインコース非常勤講師。

日本作曲家協議会、日本電子音楽協会会員、音楽情報科学研究会会員。

## □佐藤まどか(ヴァイオリン)

東京芸術大学附属音楽高校、同大学、同大学院修士課程を経て、博士後期課程在学中。

この間ロンドンへ留学。帰国後もイギリス、スイス、ウィーンにて研鑽を積む。

井上需、澤和樹、沼田園子、B.カトーナ、浦川宜也、G.ボッセ、宗倫匡の各氏に師事。

1992年第44回プラハの春国際音楽コンクールヴァイオリン部門特別賞受賞。

1993年第5回ヴァクラフ・フムル国際ヴァイオリンコンクール第2位(最高位)入賞。

1994年第13回ロドルフォ・リピツァー国際ヴァイオリンコンクール第4位(1位なし)入賞。

1995年第7回ジャン・シベリウス国際ヴァイオリンコンクール第3位入賞。

ウィーン・コンチェルトハウス、フィンランド・オウルンサロ音楽祭、シベリウス・イン・コルッポ音楽祭など、いずれも好評を博している。

シベリウス研究と作品紹介・未発表作品の初演を積み重ねるほか、ソロや室内楽に加えて、数多くの現代作品を手がけるなど多彩な演奏活動を展開し、的確な洞察力と豊かな表現力は高い評価を受けている。

日本シベリウス協会理事。

上野学園大学講師。



## “劫” アルト・サクソフォンとシンセサイザーのための Koh for Alt-Saxophone and Synthesizer

Kohji  
Okazaki

## “醒める河で” MIDIピアノとライブ・コンピュータのための With the Impetuous Current

Mikako  
Mizuno

### 【プログラムノート】

互いに否定し合う二つの存在。二人の人間の、相異なる思想であったり、一人の人間の中にある、相矛盾する物の考え方であったり、自然現象であったり、天と地であったり。守るべき物と破壊すべき物……。互いが存在存在せぬかぎり、互いに否定し合うことが出来ない。刹那と劫。そのような感覚の曲のつもりである。

### ■岡崎光治

#### 主要作品:

「刻-I」電子変調を伴う 箏、二十弦のためのオペラ「鳴砂」  
ソプラノのための「さまよう六条の御息所」  
ミュージカル「炎の迷宮」、「甦れ美し郷」  
ソプラノ、バリトン、混声合唱とオーケストラのためのカンタータ「魂の坑道は果てしなく」  
コンピュータと打楽器のための「打の彩-6」  
ピアノと3台のシンセサイザーのための「Phantasmagoria - III」  
アルト・サクソフォンとピアノのための「ハデス」  
三人のシンセサイザー奏者のための「絡」  
男声合唱組曲「心に翼を」  
電子音、2台のシンセサイザー、現代舞踊のための「迦陵頻伽」  
など

### □及川麻里(アルト・サクソフォン)

昭和音楽大学器楽科卒業。卒業演奏会、読売新人演奏会出演。  
ジョイントリサイタル開催。  
第64回日演連推薦新人演奏会において、仙台フィルと協演。  
中国吉林省、韓国大邱市での音楽会に出演。  
サクソフォンを古溝徹、宗貞啓二、平野公崇の各氏に師事。

### □石垣弘子(シンセサイザー)

武蔵野音楽大学音楽学部ピアノ科卒業。今井紀子、中根伸也の各氏に師事。  
「アジア音楽祭」「日本電子音楽協会定期演奏会」「海の合唱団ヨーロッパ公演」「宮城県芸術協会派遣コンサート中国吉林省長春市」「国際現代音楽協会/アジア作曲家連盟の夕べ」「JFCアンデパンダン東京」「仙台作曲家集団コンサート」「宮城県芸術協会コンサート」「国際音楽の日'02仙台コンサート」等に出演。  
その他様々な企画コンサート、合唱団の定期演奏会などにピアニスト、あるいはシンセサイザー奏者として出演。

### 【プログラムノート】

「醒める河で」は、ピアノとコンピュータのためのマルチメディア作品であるが、ピアノとエレクトロニクス音響のための音楽作品、あるいは、ピアノソロ 作品として上演することも可能である。今回は、ピアノ演奏と電子音響と映像が同期するマルチメディアの形態で上演される。

作品タイトルは、日本の詩人永島卓氏の詩「緑の夜」に基づいており、以下のような詩行で始まる。

醒める河で  
腐食風景を吐く  
汗を焼く焦土で  
憎みきる役務の花  
夜の盟約を抱きながら  
苦悩の肖像を吊すとき  
水平海岸を撃つ夢は倒立する声を孕み  
原生林の重い胎内で  
震えながら沈む死の匂い (続く)

詩に描かれた若き日の焦燥と五感を自在に行き来する瑞々しい感性の世界を、神経質なピアノの動きと異界への亀裂を含む音響で表現しようと試みた。映像は、ピアノから出されるMIDI信号を多角的に読み取って視覚パラメータに置き換えることによって構成されている。

映像制作:伊藤典和

### ■水野みか子

東京大学文学部美学芸術学科、愛知県立芸術大学音楽学部・同研究科を各々卒業・修了。  
名古屋市立大学大学院芸術工学研究科助教授。工学博士。  
作曲を兼田敏、岡坂慶紀、松井昭彦、寺井尚之、マルコ・ストロッパの各氏に師事。  
神奈川県創作合唱曲コンクール、日本交響楽振興財団作曲賞、日仏現代音楽コンクールなどにて入賞・入選。

主要作品として、管弦楽作品《Showering Memory》《穀物の緑の波》《光の扉へ》、室内楽作品「ヴァイオリン、チェロ、ピアノのための《DAN》」、「コントラバスとピアノのための《Koexistenz mit...》」、「能管とパイプオルガンのための《Space Prism》」など、ライブ・エレクトロニクス作品《digIvox》(sop.,elec.)、《パンテオンの糸》(vc.,elec.)、「ピアニストとディスクラヴィアとコンピュータのための視聴覚作品《シュテファンの腕時計》」、「フルート、描く人、コンピュータのライブコンピューティング視聴覚作品《quantumqumque》」、「ヴァイオリンとライブコンピューティングのためのインタラクティブ視聴覚作品《光の詞華集》」などがある。  
海外では、パリのISEAやCERPS、ブールジュIMEB、ザルツブルグ大学、ハンガリー放送、ケルンとベルリンのGEDOKなどで作品が紹介されている。